

就業状態別にみた高齢者の生活時間の実態 (3)

—男性と女性の比較—

関根美貴

1. はじめに

本研究では就業状態別に高齢者の生活時間の実態について考察する。第 1 報である関根 (2011) では男性について、第 2 報である関根 (2012) では女性について分析した。第 3 報である本稿では就業状態ごとに男性と女性を比較することでより詳しく分析していく。本稿では 60 歳代、70 歳代を主な分析対象とする。用いた資料は総務省「社会生活基本調査」(2006) である。

2. 総平均時間について

2.1 総数について

まず表 1 を用いて有業者、無業者をあわせた総数における 1 次活動、2 次活動、3 次活動の年齢階級別総平均時間についてみていこう。1 次活動とは睡眠、食事など生理的に必要な活動を指し、2 次活動は仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動を指す。3 次活動は 1 次活動、2 次活動以外で、各人が自由に使える時間における活動のことである。資料として用いた「社会生活基本調査」(2006) における標本数及び推定人口は表 1 にあるとおりである。

1 次活動についてみていこう。男性の 60~64 歳階級における総平均時間は 650 分で、年齢階級の上昇に伴って増加し、75~79 歳階級では 725 分となる。年齢階級変動を知るため、1 つ前の年齢階級との差をみると、65~69 歳階級及び 70~74 歳階級では +20 分前半であったものが、75~79 歳階級では +31 分と増加幅がやや拡大する。女性の 60~64 歳階級の総平均時間は 641 分と同一年齢階級の男性との差は 10 分ほどしかない。年齢階級変動についても男性のそれと類似しており、75~79 歳階級では 716 分と、男性との差はやはり 10 分ほどと変わらない。このように 1 次活動については男女間の差異はあまりみられないといえるだろう。

次に 2 次活動である。男性の 60~64 歳階級の総平均時間は 344 分で、年齢階級の上昇に伴って大きく減少し、75~79 歳階級では 152 分となる。1 つ前の年齢階級との差をみると、いずれの年齢階級においても負値を示しているが、65~69 歳階級で -96 分と他の年齢階級に比べて減少幅が大きいことがわかる。女性の 60~64 歳階級の総平均時間は 395 分で、同一年齢階級の男性よりも 51 分大きい。1 つ前の年齢階級との差は 65~69 歳階級では -38 分となっており、男性のような急激な減少はみられない。70~74 歳階級以降では男性と同様の減少幅となっている。そのため 65~69 歳以降では同一年齢階級の男女の差が 100 分以上に拡大する。

2 次活動のうち仕事等 (通勤時間、仕事の合計) についてみてみよう。男性の 60~64 歳階級の

表1 年齢階級別・就業状態別にみた総平均時間

単位：分

	標本数	推定人口 (千人)	1次活動	2次活動	仕事等	家事関連	3次活動	休養的自由 時間活動	積極的自由 時間活動	他の3次活動
総数・男性										
60～64歳	12,886	3,876	650	344	296	47	446	276	90	81
65～69歳	12,387	3,537	673	248	187	61	519	316	111	92
70～74歳	11,179	3,013	694	195	123	71	551	353	106	92
75～79歳	8,438	2,208	725	152	76	75	563	377	95	91
80～84歳	4,650	1,252	749	127	53	73	564	414	66	84
85歳以上	2,578	694	791	81	31	49	568	435	46	87
総数・女性										
60～64歳	13,959	4,124	641	395	131	263	404	238	75	92
65～69歳	13,874	3,902	662	357	95	262	421	258	74	88
70～74歳	12,920	3,560	687	305	56	249	448	290	67	93
75～79歳	10,600	2,900	716	254	39	216	470	328	55	84
80～84歳	7,198	2,057	747	187	23	163	506	370	49	87
85歳以上	5,715	1,629	797	90	8	81	553	422	34	98
有業者・男性										
60～64歳	9,355	2,792	639	441	409	32	361	233	62	65
65～69歳	6,799	1,873	658	385	346	39	397	247	74	76
70～74歳	4,597	1,123	681	358	316	42	401	272	61	69
75～79歳	2,570	589	705	311	266	45	424	301	55	69
80～84歳	1,073	236	724	297	256	41	419	320	40	59
85歳以上	343	86	742	238	207	31	459	377	39	42
有業者・女性										
60～64歳	6,644	1,868	630	490	283	207	320	199	49	73
65～69歳	4,802	1,247	643	481	282	199	316	201	47	67
70～74歳	3,261	781	669	436	238	199	335	220	48	67
75～79歳	1,846	437	708	389	220	168	343	243	34	65
80～84歳	719	168	744	351	205	145	345	258	29	59
85歳以上	191	44	756	304	216	89	379	282	39	59
無業者・男性										
60～64歳	3,499	1,077	678	98	10	88	664	388	160	116
65～69歳	5,519	1,628	691	95	10	84	654	390	156	109
70～74歳	6,515	1,869	702	98	9	87	640	402	133	107
75～79歳	5,796	1,582	733	94	8	85	614	406	109	100
80～84歳	3,537	1,004	755	87	8	80	598	435	73	89
85歳以上	2,212	601	797	59	7	52	583	444	48	92
無業者・女性										
60～64歳	7,301	2,249	651	316	5	309	474	269	96	108
65～69歳	9,049	2,636	672	299	6	291	470	286	86	97
70～74歳	9,634	2,769	692	269	6	263	479	309	72	99
75～79歳	8,721	2,441	717	232	6	226	491	345	59	89
80～84歳	6,432	1,876	747	172	7	165	521	381	51	89
85歳以上	5,465	1,561	798	85	3	82	558	425	34	98

資料：総務省「社会生活基本調査」（2006）

総平均時間は296分で、年齢階級の上昇に伴って大きく減少し、75～79歳階級では76分となる。1つ前の年齢階級との差は65～69歳階級では-109分と、最も大きい減少幅となっており、それ以降の年齢階級においては減少幅が次第に小さくなっていく。女性の60～64歳階級の総平均時間は131分と、同一年齢階級の男性に比べて165分も小さい。1つ前の年齢階級との差をみると、いずれの年齢階級も負の値となっているが、男性の65～69歳階級のような大きな減少幅はみられない。女性の75～79歳階級の総平均時間の値は39分で、同一年齢階級の男性との差は37分まで縮小される。

2次活動のうち家事関連（家事、介護・看護、育児、買い物の合計）についてみていこう。男性の60～64歳階級の総平均時間は47分で、年齢階級の上昇に伴って少しではあるが増加し、75～79歳階級では75分となる。1つ前の年齢階級との差は65～69歳階級で+14分であるが徐々

に小さくなり、75～79歳階級では+4分となる。女性の60～64歳階級の総平均時間は263分と同一年齢階級の男性に比べて216分も大きい。1つ前の年齢階級との差はいずれの年齢階級においても負値であるが、65～69歳階級では-1分とほぼ横ばい状態である。年齢階級の上昇に伴って減少幅は大きくなり、75～79歳階級の1つ前の年齢階級との差は-33分となっている。それでも75～79歳階級の総平均時間は216分と、同一年齢階級の男性よりも140分以上大きい。

3次活動についてみていこう。男性の60～64歳階級の総平均時間は446分で、年齢階級の上昇に伴って増加し、75～79歳階級では563分となる。1つ前の年齢階級との差をみると、65～69歳階級では+73分であったものが、75～79歳階級では+12分となっており、年齢階級の上昇に伴って増加幅が小さくなっていく。女性の60～64歳階級の総平均時間は404分と、同一年齢階級の男性よりも約40分小さい。75～79歳階級の総平均時間は470分で、男性との差は拡大する。女性では1つ前の年齢階級との差も男性と同様いずれも正の値であるが、+17分から+22分と年齢階級による差は男性ほど大きくない。

3次活動のうち、休養的自由時間活動（テレビ・ラジオ・新聞・雑誌、休養・くつろぎの合計）についてみていこう。男性の60～65歳階級の総平均時間は276分で、年齢階級の上昇に伴って増加し、75～79歳階級では377分となる。1つ前の年齢階級との差をみると、65～69歳階級及び70～74歳階級では+40分前後の値であったものが、75～79歳階級では+24分となっており、増加幅がやや縮小していることがわかる。女性の60～64歳階級では総平均時間が238分と、同一年齢階級の男性よりも38分少ない。1つ前の年齢階級との差は65～69歳階級では+20分で、その後徐々に大きくなり、75～79歳階級では+38分となる。男性では低年齢階級で増加幅が大きいのに対し、女性は高年齢階級で増加幅が大きく、年齢階級変動の特徴が異なっている。なお75～79歳階級の女性の総平均時間は328分と、同一年齢階級の男性よりも49分小さい。

積極的自由時間活動（学習・研究（学業以外）、趣味・娯楽、スポーツ、ボランティア活動・社会参加活動の合計）についてみていこう。男性の60～64歳階級の総平均時間は90分である。1つ前の年齢階級との差は65～69歳階級では+21分であったものが、70～74歳階級では-5分、75～79歳階級では-11分と負値を示している。男性の75～79歳階級の総平均時間は95分となる。女性の60～64歳階級の総平均時間は75分で、同一年齢階級の男性よりも15分ほど少ない。1つ前の年齢階級との差をみると、男性とは異なり65～69歳階級で-1分、70～74歳階級で-7分、75～79歳階級で-12分と、いずれの年齢階級においても負の値を示し、その絶対値は少しずつであるが、大きくなっている。75～79歳階級の総平均時間は55分と、同一年齢階級の男性よりも40分小さい。なお、他の3次活動については紙面の制約上省略する。

このように3次活動についてはいずれの項目も値の水準、年齢階級変動ともに男女で異なった特徴があることがわかった。

2.2 有業者について

次にふだんの就業状態別に総平均時間をみていこう。資料として用いた「社会生活基本調査」

(2006) の標本における有業者の総数に対する比率は、男性の 60～64 歳階級で 72.6%、65～69 歳階級では 54.9%と大きく低下する。それ以降も低下を続け 75～79 歳階級で 30.5%となる。女性では 60～64 歳階級で 47.6%、65～69 歳階級では 34.6%と男性ほどではないものの大きく低下する。それ以降も低下を続け 75～79 歳階級では 17.4%となる。

1 次活動についてみていこう。男性の 60～64 歳階級の総平均時間は 639 分、75～79 歳階級では 705 分となる。女性の 60～64 歳階級の総平均時間は 630 分で、同一年齢階級の男性よりも 10 分ほど小さい。75～79 歳階級では 708 分となる。この年齢階級では女性の値は男性よりも 3 分ほどであるが大きいものとなる。これは男女ともに年齢階級の上昇に伴って総平均時間が増加しているものの、1つ前の年齢階級との差をみると 75～79 歳階級において女性のほうがやや大きくなっているためである。なお 80～84 歳でも同様の傾向となっている。

2 次活動についてみていこう。男性の 60～64 歳階級の総平均時間は 441 分で、年齢階級の上昇に伴って大きく減少し、75～79 歳階級では 311 分となる。1つ前の年齢階級との差をみると、65～69 歳階級では -56 分と減少幅が最も大きく、70～74 歳階級では -27 分と減少幅が最も小さくなっている。女性の 60～64 歳階級の総平均時間は 490 分で、同一年齢階級の男性よりも 50 分ほど大きい。年齢階級の上昇に伴って減少し 75～79 歳階級では 389 分となる。同一年齢階級の男性との差は 80 分ほどと拡大する。これは 1つ前の年齢階級との差が 65～69 歳階級では -9 分と男性のような大きな減少がみられないことや、これ以降の年齢階級においていずれも -45 分前後の値となっていることなど、男性とは異なった年齢階級変動となっているためである。

仕事等についてみていこう。男性の 60～64 歳階級の総平均時間は 409 分で、年齢階級の上昇に伴って大きく減少し、75～79 歳階級では 266 分となる。1つ前の年齢階級との差をみると 65～69 歳階級で -63 分と減少幅が最も大きい。女性の 60～64 歳階級の総平均時間は 283 分と同一年齢階級の男性よりも 120 分以上小さい。年齢階級の上昇に伴って減少し、75～79 歳階級では 220 分となる。この年齢階級では男性との差は 46 分まで縮小している。1つ前の年齢階級との差をみると 65～69 歳階級で -1 分となっており、男性のような大きな減少幅は示していない。それまで正規雇用者であった場合、定年退職後も働き続けていても仕事等への配分時間が減少することが多いと推測される 60 歳代において女性の総平均時間があまり変化しないのは、男性と女性とでは有業者の雇用形態や経済的な背景がかなり異なっているためではないかと推測される。

家事関連についてみていこう。男性の 60～64 歳階級の総平均時間は 32 分である。年齢階級の上昇に伴ってほんの少しだけ増加している。女性の 60～64 歳階級の総平均時間は 207 分で、同一年齢階級の男性よりも 175 分も大きい。75～79 歳階級の総平均時間は 168 分となっている。同一年齢階級の男性との差は 120 分ほどまで縮小する。なお女性の 1つ前の年齢階級との差は 75～79 歳階級で -31 分と大きい減少幅となっているものの、それ以前の年齢階級ではそれぞれ -8 分、0 分と大きな増減はみられない。

3 次活動についてみていこう。男性の 60～64 歳階級の総平均時間は 361 分で、年齢階級の上

昇に伴って増加し、75～79 歳階級では 424 分となる。1 つ前の年齢階級との差をみると、65～69 歳階級で+36 分と最も大きく、70～74 歳階級で+4 分と最も小さくなる。女性の 60～64 歳階級の総平均時間は 320 分で同一年齢階級の男性よりも 40 分ほど小さい。75～79 歳階級では 343 分と、同一年齢階級の男性との差は約 80 分と拡大する。1 つ前の年齢階級との差をみると、65～69 歳階級のみ-4 分と負値を示し、70～74 歳階級で+19 分と正の最も大きい値を示している。このように男性と女性では値の水準、年齢階級変動ともに異なった特徴がみられることがわかる。

休養的自由時間活動についてみていこう。男性の 60～64 歳階級の総平均時間は 233 分となっており、年齢階級の上昇に伴って増加し、75～79 歳階級では 301 分となる。女性の 60～64 歳階級の総平均時間は 199 分と、同一年齢階級の男性よりも 34 分小さい。女性も年齢階級の上昇に伴って増加し、75～79 歳階級では 243 分となる。1 つ前の年齢階級との差は男女ともに年齢階級の上昇に伴って大きくなるものの、いずれの年齢階級においても男性のほうが大きい値となっている。そのため 75～79 歳階級の総平均時間の男女差は約 60 分まで拡大する。

積極的自由時間活動についてみていこう。男性の 60～64 歳階級の総平均時間は 62 分、75～79 歳階級では 55 分となっている。1 つ前の年齢階級との差をみると 65～69 歳階級では+12 分と正の値を示す。それ以降の年齢階級では-13 分、-6 分と負値に転じる。女性の 60～64 歳階級の総平均時間は 49 分と同一年齢階級の男性よりもやや小さい。75～79 歳階級では 34 分となっている。1 つ前の年齢階級との差をみると、75～79 歳階級で-14 分となっているが、それ以前の年齢階級においてはいずれも小さい値で、ほぼ増減はみられないことがわかる。有業者の女性は男性とは異なり、積極的自由時間活動についても家事関連と同様、75～79 歳階級ではじめて減少傾向となるといった特徴がみられることがわかった。

2.3 無業者について

次に無業者についてみていこう。1 次活動については、男女ともに年齢階級の上昇に伴ってともに総平均時間が増加している。男性のほうがいずれの年齢階級においても総平均時間がやや大きいものの、年齢階級の上昇に伴って、男女差は縮小する傾向がみられる。

2 次活動についてみていこう。男性の 60～64 歳階級の総平均時間は 98 分で、年齢階級の上昇に伴う変化はあまりみられず、75～79 歳階級では 94 分となっている。女性の 60～64 歳階級の総平均時間は 316 分と、同一年齢階級の男性に比べて 218 分も大きい。年齢階級の上昇に伴って総平均時間は減少し、75～79 歳階級では 232 分となる。1 つ前の年齢階級との差をみるといずれも負値で、年齢階級の上昇に伴いその絶対値が大きくなっていくことがわかる。そのため 75～79 歳階級では男性との差は 138 分に縮小する。

2 次活動の主な項目として、家事関連についてみていこう。なお仕事等は、無業者であるため省略する。男性の 60～64 歳階級の総平均時間は 88 分で、その後の年齢階級においても大きな変動はみられない。女性の 60～64 歳階級の総平均時間は 309 分となっている。同一年齢階級の男性と比べると 221 分も大きい。女性の総平均時間は年齢階級の上昇に伴って減少し、75～79 歳階

級では 226 分と、同一年齢階級の男性との差は縮小するものの約 140 分もある。1 つ前の年齢階級との差はいずれも負値で、年齢階級の上昇に伴って絶対値が大きくなっていくことがわかる。

3 次活動についてみていこう。男性の 60～64 歳階級の総平均時間は 664 分と非常に大きい。年齢階級の上昇に伴って減少し、75～79 歳階級では 614 分となる。1 つ前の年齢階級との差はいずれも負値であるが、65～69 歳階級で -10 分であったものが、その後次第に絶対値が大きくなり、75～79 歳階級では -26 分となっている。女性の 60～64 歳階級の総平均時間は 474 分と、同一年齢階級の男性よりも 190 分も少ない。75～79 歳階級では 491 分と、同一年齢階級の男性との差は約 120 分となる。1 つ前の年齢階級との差をみると、65～69 歳階級では -4 分と負の値を示しているが、70～74 歳階級、75～79 歳階級ではそれぞれ +9 分、+12 分と正の値となっている。男性と女性で値の水準、年齢階級変動ともかなり異なった特徴をもつことがわかる。

3 次活動の主な項目についてみていこう。休養的自由時間活動についてみていこう。男性の 60～64 歳階級の総平均時間は 388 分となっている。年齢階級の上昇に伴って徐々に増加していき、75～79 歳階級では 406 分となる。1 つ前の年齢階級との差をみると、70～74 歳階級の +12 分が最も大きい。女性の 60～64 歳階級の総平均時間は 269 分である。同一年齢階級の男性に比して 119 分も小さい。女性の総平均時間は年齢階級の上昇に伴って増加していき、75～79 歳階級では 345 分となる。1 つ前の年齢階級との差は 65～69 歳階級で +17 分で、その後大きくなり、75～79 歳階級では +36 分となる。女性の総平均時間は男性よりも少ないが、増加幅が女性のほうが大きいため、両者の差は縮小し、75～79 歳階級では両者の差は 61 分と半減する。

積極的自由時間活動についてみていこう。男性の 60～64 歳階級の総平均時間は 160 分で、年齢階級の上昇に伴って減少していき、75～79 歳階級では 109 分となる。1 つ前の年齢階級との差をみると、70 歳代で -20 分台と減少幅が拡大することがわかる。女性の 60～64 歳階級の総平均時間は 96 分で、同一年齢階級の男性より 60 分以上小さい。女性も年齢階級の上昇に伴って減少し、75～79 歳階級では 59 分となる。1 つ前の年齢階級との差をみると、いずれの年齢階級でも -10 分から -14 分と大きな差はみられない。積極的自由時間活動においても女性と男性とでは値の水準、年齢階級変動ともかなり異なった特徴がみられることがわかる。

3. 行動者平均時間及び行動者率について

3.1 総数について

より詳しく分析するために、表 2、表 3 を用いて行動者平均時間及び行動者率についてみていこう。なお行動者平均時間は行動者数を分母にしているため、各項目について単純に足し合わせることができない。そこで 1 次、2 次、3 次活動の代表的な項目についてみていくこととする。

まず総数についてみていこう。2 次活動の仕事についてみていこう。男性の 60～64 歳階級の行動者平均時間は 470 分で、年齢階級の上昇に伴って減少し、75～79 歳階級では 329 分となる。1 つ前の年齢階級との差は、65～69 歳階級において -52 分で、大きな減少幅となっている。女性

表2 年齢階級別・就業状態別にみた行動者平均時間

単位：分

	1次活動	2次活動	仕事	家事	3次活動	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	休養・くつろぎ	趣味・娯楽	スポーツ
総数・男性									
60～64歳	650	413	470	109	453	229	120	182	123
65～69歳	673	328	418	117	524	256	127	184	127
70～74歳	694	276	382	133	556	279	140	180	114
75～79歳	725	233	329	137	567	287	154	176	106
80～84歳	749	215	296	137	567	311	179	167	92
85歳以上	791	186	247	136	572	319	214	159	89
総数・女性									
60～64歳	641	406	359	227	410	193	108	153	88
65～69歳	662	371	345	230	427	207	115	155	89
70～74歳	687	326	305	228	453	225	132	163	89
75～79歳	716	288	277	216	472	242	160	159	84
80～84歳	747	244	233	195	510	268	196	151	80
85歳以上	797	183	195	160	559	301	245	161	70
有業者・男性									
60～64歳	639	486	474	91	369	192	107	155	118
65～69歳	658	434	427	98	403	203	106	161	121
70～74歳	681	403	396	114	408	211	128	144	116
75～79歳	705	359	349	127	430	224	130	156	93
80～84歳	724	337	324	121	422	234	147	131	94
85歳以上	742	267	254	109	465	287	162	145	84
有業者・女性									
60～64歳	630	497	368	188	329	164	97	138	87
65～69歳	643	489	369	184	323	163	100	130	97
70～74歳	669	449	332	192	342	177	111	165	85
75～79歳	708	403	307	181	349	187	124	126	61
80～84歳	744	377	277	169	354	195	149	134	123
85歳以上	756	321	289	126	387	185	174	150	37
無業者・男性									
60～64歳	678	152	233	126	664	314	151	208	124
65～69歳	691	157	241	128	657	309	149	196	130
70～74歳	702	163	221	138	642	316	146	191	113
75～79歳	733	165	193	141	617	309	163	179	104
80～84歳	755	168	180	138	600	329	186	171	92
85歳以上	797	157	203	138	587	325	219	157	95
無業者・女性									
60～64歳	651	328	183	256	477	214	117	159	89
65～69歳	672	313	147	251	475	226	121	160	88
70～74歳	692	291	167	238	484	237	137	163	89
75～79歳	717	266	173	223	493	251	166	163	88
80～84歳	747	229	159	197	524	275	199	151	79
85歳以上	798	177	118	163	564	303	247	160	71

資料：表1に同じ。

の60～64歳階級の行動者平均時間は359分と、同一年齢階級の男性よりも111分も小さい。その後年齢階級の上昇に伴って減少し、75～79歳階級では277分となる。1つ前の年齢階級との差をみると65～69歳階級においては-14分となっており、男性のような大きな減少幅とはなっていない。これ以降の年齢階級においても1つ前の年齢階級との差は男性と同程度か絶対値のより小さい負の値となっている。そのため75～79歳階級では男性と女性の行動者平均時間の差は55分と小さくなる。これは先述のように現役時からの正規雇用者比率や経済的背景が男女で異なっていることが影響していると推察される。行動者率についてみていこう。男性の60～64歳階級

表3 年齢階級別・就業状態別にみた行動者率

単位：%

	1次活動	2次活動	仕事	家事	3次活動	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	休養・くつろぎ	趣味・娯楽	スポーツ
総数・男性									
60～64歳	100.0	82.0	55.6	23.3	98.3	86.9	64.5	29.2	17.1
65～69歳	100.0	75.0	40.7	29.6	99.0	90.8	66.3	33.9	23.1
70～74歳	100.0	70.2	30.3	32.7	99.1	92.4	68.1	34.6	22.9
75～79歳	100.0	64.9	22.3	34.2	99.2	92.7	72.3	32.2	20.2
80～84歳	100.0	59.0	17.7	36.4	99.5	92.0	71.3	24.8	15.1
85歳以上	100.0	43.3	12.7	25.6	99.3	87.3	73.2	20.2	9.8
総数・女性									
60～64歳	100.0	97.2	33.4	90.2	98.4	86.6	65.3	29.9	16.8
65～69歳	100.0	96.2	25.6	89.9	98.5	88.6	65.7	29.4	16.8
70～74歳	100.0	93.5	17.8	87.6	98.8	89.3	67.5	26.8	14.1
75～79歳	100.0	88.4	13.7	81.4	99.4	89.5	70.3	24.0	9.9
80～84歳	100.0	76.6	9.7	69.4	99.1	85.4	72.2	21.3	7.6
85歳以上	100.0	49.1	4.2	43.0	99.0	80.8	73.3	14.7	7.0
有業者・男性									
60～64歳	100.0	88.8	75.7	16.9	97.7	84.8	64.6	22.2	11.9
65～69歳	100.0	87.7	73.2	20.2	98.5	87.8	65.6	23.9	15.9
70～74歳	100.0	88.0	74.4	21.9	98.2	87.8	67.1	22.8	12.8
75～79歳	100.0	86.6	72.3	21.9	98.7	91.2	73.5	19.0	11.5
80～84歳	100.0	87.5	75.8	21.8	99.1	90.7	72.1	15.6	9.1
85歳以上	100.0	88.2	79.8	19.0	99.3	93.9	61.7	13.5	12.0
有業者・女性									
60～64歳	100.0	98.4	70.1	86.0	97.4	83.4	64.4	20.7	11.2
65～69歳	100.0	98.2	71.6	85.8	97.7	84.4	63.5	18.8	10.1
70～74歳	100.0	97.0	68.3	84.0	98.1	83.7	64.9	17.9	8.6
75～79歳	100.0	96.4	70.4	79.3	98.5	85.6	66.7	16.7	9.1
80～84歳	100.0	93.2	73.3	71.7	97.5	81.4	65.9	14.3	5.3
85歳以上	100.0	93.7	70.8	62.2	97.8	79.3	72.4	16.9	8.9
無業者・男性									
60～64歳	100.0	64.6	3.9	39.8	99.9	92.2	64.5	47.2	30.5
65～69歳	100.0	60.7	4.1	40.4	99.6	94.0	67.2	45.7	31.5
70～74歳	100.0	59.7	4.0	39.2	99.8	95.2	68.9	41.5	29.0
75～79歳	100.0	56.7	4.2	38.5	99.4	93.1	72.1	37.4	23.4
80～84歳	100.0	52.2	4.3	39.8	99.6	92.2	71.0	27.0	16.7
85歳以上	100.0	37.3	3.3	26.9	99.3	86.3	74.9	21.4	9.6
無業者・女性									
60～64歳	100.0	96.1	2.9	93.7	99.3	89.2	66.2	37.6	21.5
65～69歳	100.0	95.4	4.1	91.9	98.9	90.9	66.8	34.4	19.8
70～74歳	100.0	92.6	3.6	88.7	99.1	90.9	68.1	29.3	15.6
75～79歳	100.0	87.0	3.6	82.0	99.6	90.2	70.9	25.1	10.1
80～84歳	100.0	75.0	4.1	69.2	99.3	85.7	72.9	21.9	7.7
85歳以上	100.0	47.9	2.4	42.5	99.0	80.7	73.6	14.8	7.1

資料：表1に同じ。

における行動者率は 55.6%で、年齢階級の上昇に伴って低下し、75～79 歳階級では 22.3%となる。女性の 60～64 歳階級における行動者率は 33.4%で、やはり年齢階級の上昇に伴って低下し、75～79 歳階級では 13.7%となる。男女の行動者率の差は年齢階級の上昇に伴って縮小していく。

家事についてみていこう。男性の 60～64 歳階級における行動者平均時間は 109 分で、75～79 歳階級では 137 分となっている。女性の 60～64 歳階級の行動者平均時間は 227 分で、男性よりも 120 分ほど大きい。1つ前の年齢階級との差は男性では最大でも +16 分と大きいものではないが、いずれも正の値となっている。女性では 75～79 歳階級で -12 分となっているが、それ以前

の年齢階級においては、+3分、-2分とほとんど変動はみられない。行動者率については60～64歳階級の男性では23.3%、女性で90.2%と大きく異なっている。男性の行動者率は年齢階級の上昇に伴って少しずつ上昇する。一方、女性は75～79歳階級でやや低下するものの、それ以前の年齢階級においては大きな変化はみられないことがわかる。総数における家事の総平均時間の男女の差は、行動者平均時間の違いもあるが、それ以上に行動者率の違いが強い影響をもたらしているといえるだろう。

3次活動の代表的な項目についてみていこう。まず休養的自由時間活動の中で最も行動者率が高いテレビ・ラジオ・新聞・雑誌についてである。男性の60～64歳階級の行動者平均時間は229分で、75～79歳階級では287分と年齢階級の上昇に伴い増加している。女性の60～64歳階級の行動者平均時間は193分で、同一年齢階級の男性よりも36分少ない。75～79歳階級では242分と年齢階級の上昇に伴い増加しており、同一年齢階級の男性との差は45分とやや拡大していることがわかる。1つ前の年齢階級との差をみると、70～74歳階級までは男女とも年齢階級の上昇に伴う増加幅の変化はあまりないものの、いずれの年齢階級で男性のほうが大きいことがわかる。75～79歳階級では男性の増加幅が縮小するため、女性のほうが大きくなる。なお行動者率については男女ともにいずれの年齢階級においても90%前後の高い値を示している。

休養・くつろぎについてもみていこう。男性の60～64歳階級の行動者平均時間は120分で、75～79歳階級では154分と年齢階級の上昇に伴い増加している。女性の60～64歳階級の行動者平均時間は108分で、75～79歳階級では160分とやはり年齢階級の上昇に伴い増加している。1つ前の年齢階級との差をみると70～74歳階級までは男女ともに類似した値となっているが、75～79歳階級では女性が+28分と大きくなるのに対し、男性では70～74歳階級とほぼ同様の+14分となっている。70歳代後半の増加幅が男女で異なっていることがわかる。それゆえこの年齢階級においては行動者平均時間が男性より女性のほうが多くなる。行動者率については60～64歳階級の男性で64.5%、75～79歳階級では72.3%となっている。女性は60～64歳階級で65.3%、75～79歳階級で70.3%と、男女ともにあまり変化していないことがわかる。

これらのことから休養的自由時間活動における総数の総平均時間の増加幅の男女の違いは、行動者率ではなく、行動者平均時間の増加幅の男女の違いが影響していると推測されるだろう。

次に積極的自由時間活動の代表的な項目についてみていこう。まず最も行動者率の高い趣味・娯楽についてみよう。男性の60～64歳階級の行動者平均時間は182分、75～79歳階級では176分と年齢階級の上昇に伴う大きな増減はみられないが、やや減少している。女性の60～64歳階級の行動者平均時間は153分、75～79歳階級では159分とやはり年齢階級の上昇に伴う大きな増減はみられないが、やや増加している。同一年齢階級における男女の差は60～64歳階級で29分、75～79歳階級で17分となる。行動者率は男性の60～64歳階級で29.2%、75～79歳階級で32.2%となっている。女性の行動者率は60～64歳階級で29.9%、75～79歳階級で24.0%である。行動者率の年齢階級変動については男性では75～79歳階級ではじめて低下するのに対し、女性

では少しずつではあるが一貫して低下している。

スポーツについてもみていこう。男性の60～64歳階級の行動者平均時間は123分で、75～79歳階級では106分となっている。女性の60～64歳階級の行動者平均時間は88分で、75～79歳階級では84分となっている。1つ前の年齢階級との差をみると男性では65～69歳階級では値は小さいものの正を示し、それ以降の年齢階級では負値に転じている。女性ではいずれの年齢階級も±5分までの小幅な増減がみられるのみである。行動者率については男性の60～64歳階級では17.1%で、65～69歳階級ではいったん上昇するが、その後低下に転じ、75～79歳階級では20.2%となる。女性の60～64歳階級では16.8%で、60歳代ではほぼ横ばい、70歳代になって低下しはじめ、75～79歳階級では9.9%まで低下する。

これらのことから積極的自由時間活動の総平均時間の年齢階級変動には、男性では行動者平均時間及び行動者率の変動が両者とも影響しているのに対し、女性では行動者率の変動のみが影響していると考えられるだろう。

3.2 有業者について

次に有業者についてみていこう。まず2次活動の仕事についてである。男性の60～64歳階級の行動者平均時間は474分となっている。現役世代と比べてやや少ないとはいえ、土曜日曜も含めた週平均一日当たりの値であることから、かなり多くの時間を仕事に配分していることがわかる。年齢階級の上昇に伴って減少し、75～79歳階級では349分となる。女性の行動者平均時間は60～64歳階級では368分で、同一年齢階級の男性より100分以上小さい値となっている。年齢階級の上昇に伴って減少し75～79歳階級では307分となる。同一年齢階級の男性との差は約40分まで縮小する。1つ前の年齢階級との差をみると、65～69歳階級の値は+1分で、男性の同一年齢階級では-47分と絶対値の大きい負の値を示しているのとは異なっていることがわかる。なお仕事の行動者率は、有業者を対象にしているため、男性が72.3～75.7%、女性が68.3～71.6%と男女ともに大きな年齢階級変動はない。

家事についてみていこう。男性の60～64歳階級の行動者平均時間は91分で、75～79歳階級では127分と増加している。女性の60～64歳階級の行動者平均時間は188分で、同一年齢階級の男性よりも97分大きい。75～79歳階級では181分とやや減少しており、同一年齢階級の男性との差は54分まで縮小している。1つ前の年齢階級との差をみると、男性では70歳代でやや増加幅が大きくなっているのに対し、女性の70～74歳階級では+8となっているが、75～79歳階級では-11分と負の値を示していることがわかる。行動者率は男性の60～64歳階級では16.9%、65～69歳階級では20.2%となり、その後ほぼ横ばいとなる。女性の60～64歳階級では86.0%と男性よりも極めて高い。70～74歳階級までほぼ横ばいで、75～79歳階級で79.3%とやや低下する。有業者の女性の家事の総平均時間が75～79歳階級で大きく減少するのは、この年齢階級における行動者平均時間の減少と行動者率の低下の両方が影響を与えているものと思われる。このように男性では仕事の行動者平均時間が大きく減少する一方で、家事の行動者率がやや上昇する。

また家事の行動者平均時間も少しずつ増加する。女性では仕事の行動者平均時間が減少しても、家事の行動者率や行動者平均時間に変動があまりみられない。

3次活動についてみていこう。まず休養的自由時間活動のテレビ・ラジオ・新聞・雑誌についてである。男性の60～64歳階級の行動者平均時間は192分、75～79歳階級で224分と年齢階級の上昇に伴って増加している。女性の60～64歳階級の行動者平均時間は164分で同一年齢階級の男性よりも28分ほど小さい。75～79歳階級では187分とやはり年齢階級の上昇に伴って増加するが、同一年齢階級の男性との差は37分とやや拡大する。1つ前の年齢階級との差は65～69歳階級で男性は+11分であるのに対し、女性は-1分とほぼ増減がみられない。これはこの年齢階級において女性には仕事の行動者平均時間の減少がみられないことと関連していると思われる。それ以降の年齢階級においては男女ともに正で、絶対値においても大きな違いはみられない。行動者率は男性の60～64歳階級では84.8%、75～79歳階級で91.2%とやや上昇している。女性の行動者率は60～64歳階級で83.4%と同一年齢階級の男性とほぼ同様の値であるが、75～79歳階級で85.6%と年齢階級の上昇に伴う変化はほぼみられない。

休養・くつろぎについてみていこう。男性の60～64歳階級の行動者平均時間は107分で、75～79歳階級では130分と増加している。女性の60～64歳階級の行動者平均時間は97分と、同一年齢階級の男性よりもやや小さい。75～79歳階級では124分とやはり増加していることがわかる。男女ともに年齢階級の上昇に伴って行動者平均時間は少しずつ増加している。行動者平均時間については水準、年齢階級変動ともに男女で大きな違いはみられない。行動者率については男性の60～64歳階級では64.6%で、75～79歳階級では73.5%とやや上昇している。これに対し女性の行動者率は60～64歳階級で64.4%と同一年齢階級の男性とほぼ同様の値となっているが、75～79歳階級では66.7%と男性ほど年齢階級に伴う上昇がみられないことがわかる。

休養的自由時間活動の総平均時間において有業の男性のほうが有業女性よりも大きく増加するのは、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌、休養・くつろぎともに、行動者率の上昇が男性にのみ観察されることや、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の行動者平均時間が65～69歳階級において男性のみで増加していることが影響しているといえるだろう。

積極的自由時間活動についてみていこう。まず趣味・娯楽についてである。男性の60～64歳階級の行動者平均時間は155分で、小幅な増減を繰り返し75～79歳階級では156分となる。女性の行動者平均時間は60～64歳階級では138分で、同一年齢階級の男性よりも17分ほど小さい。75～79歳階級では126分となる。1つ前の年齢階級との差は70～74歳階級+35分、75～79歳階級では-39分となっている。男性の行動者率は60～64歳階級では22.2%で、75～79歳階級では19.0%とわずかに低下する。女性についても60～64歳階級の行動者率は20.7%で75～79歳階級では16.7%と男性と同様の水準で年齢階級変動も類似していることがわかる。

スポーツについてみていこう。男性の60～64歳階級の行動者平均時間は118分で、65～69歳階級、70～74歳階級ではほぼ横ばいで、75～79歳階級では93分と減少する。女性の60～64歳

階級の行動者平均時間は 87 分で、同一年齢階級の男性よりも 30 分ほど小さい。女性においても 70～74 歳階級まではほぼ横ばいで、75～79 歳階級では 61 分と減少している。行動者率についてみていこう。男性の 60～64 歳階級では 11.9%で、仕事の行動者平均時間が減少する 65～69 歳階級では 15.9%と上昇するものの、その後低下に転じ、75～79 歳階級では 11.5%と 60～64 歳階級のほぼ同様の値となる。女性については 60～64 歳階級では 11.2%で、年齢階級の上昇に伴って少しずつではあるが低下し、75～79 歳階級では 9.1%となる。

これらのことから積極的自由時間活動の総平均時間における有業者の男女の差は、行動者平均時間が両項目とも男性のほうが大きい傾向にあることが影響していると考えられる。行動者率については 60～64 歳階級では男女にそれほど差はみられないものの、65～69 歳階級、70～74 歳階級では男性が女性よりも高い値を示していることも影響していると考えられる。なお 75 歳以上では行動者率の男女差はやや縮小する。男性の総平均時間の 65～69 歳階級での増加は、各項目の行動者率の上昇が、女性の総平均時間の 75～79 歳階級の減少は各項目の行動者平均時間の減少がより関係していると思われる。

3.3 無業者について

次に無業者についてみていこう。2 次活動の代表的な項目として、家事についてみていこう。

男性の 60～64 歳階級の行動者平均時間は 126 分で、75～79 歳階級では 141 分と年齢階級の上昇に伴って増加している。女性の 60～64 歳階級の行動者平均時間は 256 分で、年齢階級の上昇に伴って減少し、75～79 歳階級では 223 分となる。1 つ前の年齢階級との差をみると、男性ではいずれも正の値となっている。女性ではいずれも負の値であるが、年齢階級の上昇に伴って少しずつ絶対値が大きくなっていく。そのため 60～64 歳階級では女性は男性では同一年齢階級の男性よりも 130 分も大きい値となっていたものが、75～79 歳階級では 82 分と差が縮小する。行動者率については、男性の 60～64 歳階級では 39.8%、65～69 歳階級で 40.4%とやや上昇するものの、その後少しずつ低下し 75～79 歳階級では 38.5%となる。女性の行動者率は 60～64 歳階級では 93.7%で、75～79 歳階級では 82.0%と低下する。75～79 歳階級における低下がそれ以前の年齢階級よりもやや大きいものとなっている。

3 次活動についてみていこう。まず休養的自由時間活動の代表的な項目であるテレビ・ラジオ・新聞・雑誌についてである。男性の 60～64 歳階級の行動者平均時間は 314 分で、その後小幅な増減を繰り返して、75～79 歳階級では 309 分と大きな変化はみられない。女性の 60～64 歳階級の行動者平均時間は 214 分で、年齢階級の上昇に伴って少しずつ上昇し、75～79 歳階級では 251 分となる。そのため 60～64 歳階級では女性は男性よりも 100 分も小さい値であったものが、75～79 歳階級では男女の差は 58 分まで縮小する。行動者率は男性では 60～64 歳階級で 92.2%、75～79 歳階級でも 93.1%と大きな変動はみられない。女性の行動者率も 60～64 歳階級で 89.2%、75～79 歳階級で 90.2%とやはり大きな変動はみられない。同一年齢階級における男女の差もあまりみられないことがわかる。

休養・くつろぎについてみていこう。男性の60～64歳階級の行動者平均時間は151分で、その後ほぼ横ばい状態であったものが、75～79歳階級では163分と増加に転じる。なおこれ以降の年齢階級でも同様に増加していく。女性の60～64歳階級の行動者平均時間は117分で、年齢階級の上昇に伴って増加していき、75～79歳階級では166分となる。このため、60～64歳階級では男性は女性よりも34分大きい値であったものが、75～79歳階級では逆に女性のほうが男性よりも3分ではあるが大きな値となる。行動者率は男性では60～64歳階級で64.5%、75～79歳階級では72.1%と年齢階級の上昇に伴って少しずつではあるが上昇している。女性の行動者率は60～64歳階級で66.2%、75～79歳階級で70.9%とやはり少しずつであるが上昇している。また行動者率については同一年齢階級の男女でほとんど差はないことがわかる。

このように休養的自由時間活動については、男女で行動者率の水準や年齢階級変動には大きな違いがみられないが、行動者平均時間の水準や年齢階級変動に違いが認められることがわかった。男性の行動者平均時間はあまり変化がみられないか、高い年齢階級のみで変化がみられるのに対して、女性では年齢階級の上昇に伴ってやや増加している。またこれは有業者の女性にはみられない傾向でもある。

積極的自由時間活動の代表的な項目である趣味・娯楽についてみていこう。男性の60～64歳階級の行動者平均時間は208分で、年齢階級の上昇に伴って減少し、75～79歳階級では179分となる。女性の60～64歳階級の行動者平均時間は159分で、75～79歳階級では163分と大きな変動はみられない。このため60～65歳階級では50分ほどあった男女の差は、75～79歳階級では16分まで縮小する。行動者率は男性の60～64歳階級で47.2%、75～79歳階級で37.4%となっている。女性は60～64歳階級では37.6%と、同一年齢階級の男性よりも約10%ポイント低い。75～79歳階級で25.1%とやはり年齢階級の上昇に伴って低下していく。

スポーツについてみていこう。男性の60～64歳階級の行動者平均時間は124分で、65～69歳階級でいったん少し増加するものの、その後減少し75～79歳階級では104分となる。女性の行動者平均時間は60～64歳階級で89分、75～79歳階級で88分とほとんど増減しない。そのため男女の差は35分から16分へと縮小する。行動者率は男性の60～64歳階級では30.5%であったものが、70～74歳階級までほぼ横ばいで、75～79歳階級で23.4%と低下する。女性の行動者率は60～64歳階級では21.5%で、年齢階級の上昇に伴って低下し、75～79歳階級では10.1%となる。

このように積極的自由時間活動の両項目ともに、行動者平均時間が男性では年齢階級の上昇に伴って減少しているのに対し、女性はあまり変化がみられない。これは今回の対象年齢においては有業者の女性の積極的自由時間活動の各項目について減少がみられたのとは異なった傾向ともいえる。そのため同一年齢階級における男女の差は60～64歳階級ではいずれの項目も男性のほうがかなり大きいものであったが、75～79歳階級では差がかなり縮小している。また行動者率については両項目ともに同一年齢階級における差は男性のほうが女性よりも10%ポイントほど高

くなっているが、両項目ともに男女とも年齢階級に伴って低下していることがわかる。

このように積極的自由時間活動の行動者平均時間が女性でほとんど変化がみられないこと、行動者率も低下していることから推測すると、必ずしもいえるわけではないが家事の行動者平均時間の年齢階級に伴う減少のうち多くの部分が、休養的自由時間活動や1次活動にあてられていると推測することもできるだろう。

4. むすびにかえて

以上、高齢者の生活時間の実態について、就業状態ごとに男性と女性の比較を行った。

ふだんの就業状態別にみることで、男性と女性における差異も高齢者全体の平均像のものとはかなり異なった特徴があることがわかった。今後は他の様々な属性にも着目した実態把握を行い、さらにこれらをもとに計量的な分析を行う予定である。

参考文献

- 小林和美（2010）「韓国の高齢者の生活時間－生活時間調査データの日韓比較から－」『大阪教育大学紀要』Vol.58,No.2,pp.1-15
- 熊澤幸子（2003）「独居後期高齢者に対する生活時間調査：NHK全国調査60歳台と70歳台以上における生活時間の比較」『社会福祉学』Vol.44,pp.149-159
- 三富紀敬（2006）「高齢者の生活時間」『静岡大学経済研究センター研究叢書』Vol.4,pp.47-53
- 関根美貴（2011）「就業状態別にみた高齢者の生活時間の実態（1）－男性について－」『愛知教育大学家政教育講座研究紀要』Vol.44, pp.55-67
- 関根美貴（2012）「就業状態別にみた高齢者の生活時間の実態（2）－女性について－」『愛知教育大学研究報告』Vol.61,pp.43-51